

---

復讐

reruka

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

復讐

### 【Nコード】

N4973F

### 【作者名】

r e r u k a

### 【あらすじ】

前の男は体が目的での結婚。私はそんな男が大嫌いです。だから私はあなたを殺しに行きます。

## 一人目：殺意

「離婚しよう。」

まさかの一言が胸を打った。でも急にだった。昨日までは普通に楽しい日常だった。

「なんで？」

私はあえて、冷静な口調で彼に向かって言った。でも思いもよらない言葉が帰ってきた。

「だって、夜の相手が不満だったんだ。」

え！？私と交際、結婚したのはまさかそれだけの理由？  
そうして自然と殺意が芽生えてきた。

「分かった。そのかわり……。」

慰謝料は払ってもらわないと納得いかなかった。

「分かってる。1千万で……。」

生憎夫は大手企業に勤めているので金はいっぱいあった。

だから私はすぐに離婚した。A Vばかり観ている夫に飽きてきたところでもあった。

一度、誕生日に私が欲しかったDVDを買ってきてくれた事もあった。

でも、最初に渡したのはA Vだった。

そのとき私はこの人とは長くは続かないとは思ったが、こんなに早いとは思ってなかった。

別れてから次の朝になった。

この孤独感が殺意をより一層強くさせた。

今日は偶然にも仕事が無かった。だから久しぶりに、ショッピングセンターに行ってみた。

私はまだ22歳だもん。まだこうゆう場所にいたかった。

でも、何か場違いなふいんきに吞まれそうになりながら一歩ずつ慎

重に歩いて行った。

少し回想に入るが、

私は昔モテた。それが私をかえたのだと思う。

今も私を見る男の人が多くなっている。

だからといって、私はセクシーな服装にするつもりも無いし、喫茶や食事に誘うつもりも無い。

「ねえねえ、祐也！あれ前の奥さんじゃなあい？」

黙ってる！そう思いながらも前に一歩踏み出した。

祐也？あれ？前の夫も祐也だった。そう。同一人物だった。

あえて私は素通りした。でも夫は

「まだ新しい人見つかってないのか？？胸が小さいんだよ！」

といい放ち、今の彼女の胸を揉み、去って行った。

関係ない。私は私だ。でも自然と涙が出た。

どうせあんな奴はレイプや、痴漢でもして、捕まるんだ。

そう思っていた。私は絶対にあの男に復讐するだろう。あの男がどう足掻いても殺すだろう。

それまでよろしくね。卓巳。

## 二人目：復讐

卓巳とは、元夫の会社の同僚。

実は私は彼と不倫していた。SEXだってやった。

おかげで私は2年前妊娠した。だが、結果は流産。

新しい命の誕生を私は、みれなかった。彼はとても優しく、誠実だった。

「優里？痛くない？」

いつもやる時は、聞いてくれた。私があつた男と女、

そしてあの女の知り合いを殺すと言うのにのんきに買い物をしているところに

腹が立った。今アイツは幸せだと思う。

SEXも思う様に出て、子供も出て。

だがアイツらに仮に家族が出来たとしても私はそれをめっちゃくちゃにする。

いつも通りの日常。違うのはあながいないだけ。

先週送られて来たFAXだ。かつこつけた手紙なんかじゃない。

そう思っでぐちゃぐちゃに丸めて捨てた。

その代わり私は、脅迫の手紙を毎日送りつけた。

最初は長野県。次は栃木。その次は宮崎。その次は札幌。

その内容は、

『アナタワ、シアワセデスカ？』

しかも、何かの血が付いてるんじゃないか？と思うようなくらいの赤い垂れた文字。

ついでに、私はアイツらを殺してから、この夫を殺そうと思います。私は次、アイツに会ったら、部屋にでも呼んで、殺そうと思います。よく研いだ刃物をいつでも鞆に仕込んでいつでも殺そうと思います。でも、その日はそんなに遠くありませんでした。

いつもの姿で、電車を降りて、改札を通り家に帰ろうとした私。

外は暗かったので、顔の判別は大して出来ませんでした。

だけど、アイツの憎い顔だけは、しっかりと捕らえられました。

「ねえ？あなた。また久しぶりにSEXしない？」

勇気を出して聞いてみた。すると彼は飛びついて軽く舌を絡めてキスをしてきました。

気持ち悪い。私はそう思いながら、家に彼と2人で戻りました。

前々から卓巳は家に入らない様に言っていて、入っていいのは許可した時だけでした。

「早く服と下着脱げよ」

と急かす彼のために、まずは服を脱いでやりました。

私は努力して、BカップからDカップになりました。

それをみて鼻息が荒くなった、彼は、早く下着を脱げ！

とすごく急かしてきました。私の復讐は今から始まります。

### 三人目：殺人

私は下着を普通に脱ぐだけじゃ面白くないでしょ？

刃物で切った方がドキドキ感出るでしょ？

っと笑って言ってやった。そして刃物を持ってきて、彼に渡ししました。

そして彼はブラジャーを刃物で切り、すごく鼻息を荒くしてこっちを見ました。

私は胸、乳首、乳輪がみられるのですごく嫌でした。彼は、胸をなめてきました。

思わずあっと言ってしまったましたが、すぐに私は、刃物を取り、彼の胸部付近を刺しました。

私はすぐに服を取りニコツと笑い、死体をマンシヨンの一番上から落としました。誰も私がやったなんて思わない。

そう思いながらすぐに部屋に戻りました。するとそこにマンシヨンの住民が私になにか言ってきました。

「橘さん？どうかしたんですか？」

隣の部屋の人が焦っていたので少し可笑しくなって聞いてみました。

「死体があったのよ……。私は知らない……。私は……」

そういつて早足に出て行きました。

そして、彼の今の彼女に怨みを込めて電話しました。

「死んでるわよ！祐也さんが！！！」

思いつき演技なのに！そうおもって可笑しくなりました。私はいま一人を殺害しました。

あとは1人は間違いなく殺します。

彼のお葬式にはちゃんと行きました。死んでくれて嬉しいけどここで笑ってしまったらおしまいです。

「なんで！祐也さん！犯人は誰なのよおお！！！」

と私は泣き崩れたフリをしました。別にあんなのが死んでも一緒に

す。

私は毎日が楽しくなりました。けど悲しんでる振りをしないと。そう思うのがまた面白かったのです。

そこに一通の電話が入りました。

「もしもし？」

なんと掛けてきたのは祐也の妻！美佳でした。

その用件はあなたが殺したんでしょ？という内容。私は通話代が掛かるとおもって喫茶店で言った。

しかし、電話がいいと言い張る。どうせ。私をそこらへんで狙ってるんでしょ？

と言うと、電話が切れた。やっぱり。どうせそんなことだ。

私は、美佳の家に行った。出てきたのは、美佳だった。

「こんにちは。美佳さん。ちょっと入っていい？」

図々しさついでに部屋を探索してやった。すると、研ぎに研いだ刃物が見つかった。

「すいません。上がってしまってます。」

と言って刺した。彼女は、なんで？と言ってがたんと倒れていった。私はそれをみて少し笑ってしまった。

またお葬式があった。

「美佳さん！！祐也さんを幸せにしてくれるって言ったのに！！！！

私は……。どうすれば！！

必ずあなたを殺した犯人を見つけます……。」

と泣いてやった。絶対嘘のセリフ。

次は誰にしよう？

そうだな。彼の会社の同僚。卓巳にしよう。



### 三人目：殺人（後書き）

とうとう殺しました。

ちよつとHな部分もお楽しみください。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n4973f/>

---

復讐

2010年11月27日06時20分発行